

トレーニングセールとピンフッキング View from Down Under

ハイランド 真理子

アメリカからのピンフッカー

オーストラリアでは、トレーニングセールという馬の売買方法は、かつて存在しなかった。トレーニングセール、あるいはブリーズアップセールというのが出てきたのは、本当にここ何年かのことだ。とはいうものの、オーストラリアの競馬も生産の形もどんどん変化してきていて、その中で、当歳馬のセリが注目されるようになり、ピンフッキングという言葉も聞かれるようになってきている。かつて、当歳馬セールは、ほとんど値がつかなかったが、イヤリングの価格が年々上昇してきて、当歳馬もいい価格で売れるようになり、1歳馬セールを待たずとも元手のクイックリターンが出来るようになった。したがって、ここ何年かは、昔ならとても考えられないような良い血統の馬が出てくるようになり、そこで取引された馬たちを、イヤリングセールで見かけるようになった。さて、そのオーストラリアのイヤリングセールが世界的な金融恐慌の中で始まった。例外なくそのあおりを受けているものの、1月のマジックミリオンズをはじめ、各セールとも、まあまあな結果だったと言える。このせりの様子は、シドニーの秋のレーシングカーニバルとともに、後日、詳しくご報告をしてみたい。

このせりで、私はひとりのアメリカ人に会った。この人物のことは、オーストラリアの競馬関連雑誌や新聞に掲載されていたので知らないわけではなかった。しかし、その写真がまるで仙人のようだったのに、実際に会って見るとそれとは全く異なっていたので、本人なのかと疑うほど驚いた。さて、この人物とは、アメリカでも“ピンフッカーキング”と呼ばれている名うでのピンフッカー、ジョン・ブロックルバンク氏である。彼が、昨年、マジックミリオンズのイヤリングセールで馬を購入し、同年10月のトレーニングセールに上場し、成功したという話を知らないわけではなかった。しかし、ピンフッカーという言葉は、オーストラリアでは、あまり知られていないし、前述の通り、ごく最近まで使われてこなかったもので、私も他の多くのオーストラリアの競馬人と同様に、イヤリングセールほどには注意を払っていなかったのは事実である。

ところが、そのジョン・ブロックルバンク氏と彼のオーストラリアのチームが、イングリスのイースターセールにも来ていたので、オヤッという感じだった。一体アメリカ人が、オーストラリアで何をやるのだろう、オーストラリアのレースも知らないくせにと、思わぬわけでもなかった。

ピンフッカーキング J・ブロックルバンク氏に聞く

そこで、アメリカの競馬やせり、アメリカの競馬人について、何も知らないと言ってもいいほど無知な私は、イースターセールで出会ったチャンスを活かし、ここぞとばかりにジョン・ブロックルバンク氏にインタビューをさせてもらった。まず「なぜオーストラリアに」という質問に、「マジックミリオンズセールのアメリカのエージェントをしている人から、オーストラリアに来てみないかと誘われて、軽い気持ちでやって来たのです。しかし、やってきて、本当に良かったと思っている」と、目を輝かして語った。「なぜ良かったのか」と聞くと、アメリカと異なり、幅広い人々が競馬に関わっていること、ホースマンたちのクオリティが高いことなど、オーストラリアを褒めちぎって、「そのうち、オーストラリアに住もうと思っている」という言葉には、本当に驚いた。その後の彼の話は、まるでアメリカンドリームを見るようだった。

ジョン・ブロックルバンク氏は、ユタ州生



「オーナーの夢を実現させるのがピンフッカーの仕事」と語る、ジョン・ブロックルバンク氏

イングリスセールで、イヤリングについて説明をするジョン・ブロックルバンク氏

まれ。「最初は、『ボナンザ』というテレビ番組を見ていて、カッコいいなって思って、それから、馬が好きになった」のだと言う。彼は、まだ52歳だというから、私よりかなり若いだけけれど、それでも私たちと同じく『ボナンザ』を見ていたのだと、ちょっと感激！ それから彼は、年端もいかないうちから、牧場や厩舎で馬房の掃除をしたりして、馬に乗せてもらっていたと語る。「馬なら、どんな馬でもよかった。馬が走っている姿を見るためには、文字通り何百マイルでも遠くまで行って、ひたすら馬を見ていた」という。自分で最初に馬を持ったのは高校の時。ユタ大学では、一時フットボールにのめりこみ、チャンピオン・フットボーラーとしてならしたようだが、やはり「馬を忘れられず」大学を2年で離れ、馬の世界に入る。「当時は、インターネットがなかったから、競馬の結果を知るにも本当に大変だった。嫌がられるのも無視して、色々な人たちに電話をしまくり、その結果を聞きました」と語ってくれた。

彼の住むユタ州は、もともとクォーターホースカントリーと呼ばれる土地柄。そこで、ビジネスパートナーを得て、18年の間クォーターホースを育成。アメリカのクォーターホースのチャンピオンを3頭出した。アメリカで初めて100万ドルを稼いだトルタックというクォーターホースは、彼が育成した馬だという。その頃、ボブ・バファート調教師なども、クォーターホースの調教をしていたという。ブロックルバンク氏がサラブレッドを育成しはじめたのは10年前。2007年には、自分の上場馬から、27.7%という高い確率でアメリカの重賞勝ち馬を出したピンフッカーになる。売った馬の中でブラザーデレク(Brother Derek)は、サンタアニタダービーとハリウッドフューチュリティを勝ち、リレイズ(Reraise)は1998年、ベストスプリンターとしてエクリプス賞を受賞、カヴァーガール(Cover Girl)は、15戦して7勝、2000年のカリフォルニア・チャンピオン3歳牝馬になった。

もちろん、それらは、彼のサクセススト



一リーのごく一部だそうだ。そんなにいい馬を見つけることができるのに、自分で所有したり、自分で調教したりしたくないのかと聞いてみたら、「自分が育成した馬は、全て売ることにしている。人に喜んでもらうのが、自分にとっての幸せだから」と答えてくれた。それから、「競走馬のオーナーというのは、馬が好きで、馬を買うためならできる限りのお金を払いたいと思い、買えば買ったで、今度は、またお金を払って彼らの夢を追い続ける。なのに、実際は、その夢を手にする人たちは少なく、ないがしろにされているという感じを、いつも感じていた。この世界では、競走馬のオーナーがモーストインポータントな管なのですが」と、繰り返した。そして、だからこそ、そのオーナーたちの夢を単なる夢で終わらせないために、自分たちのようなピンフッカーがいるのだとも言う。「僕の役目は、できるだけ、経費と時間をかけずに、オーナーたちの夢を実現する手伝いをする事だ」と、熱弁は続いた。彼は、自分がスポーツマンだった時のことを思うと、人間のスポーツは過去50年間にスポーツ科学が発展して、アスリート(運動家)たちの能力はどんどん進歩してきたのに、競走馬は、未だにファーラップの時代から変わっていないという。さらに、彼は、馬を見るときには、全体の姿を見、そして、ボーンデンシティ、つまり、骨密度を気にすると言った。1歳馬の栄養の重要さも語り、骨密度のことも含めて、科学的なアプローチでピンフッキングからイヤリングのトレーニングまでを実施している。他にも、繋ぎのこと、気性のことなども説明してくれたが、いつか、またじっくりその話を書かせてもらいたいものだと思っている。こうして、同氏の話の聞いていたうちに、今のような不況の時代こそ、投資効率の高いトレーニングセールが必要なのだと気がついたのだが、私のような素人が言うまでもなく、4月9日に届いたケンタッキー2歳馬セールと、

「日本でも馬を買いたい」と話す、ビル・ウラホス氏(写真左)

元リーディングジョッキーのサイモン・マーシャル氏(左)と、トレーニングセールで上場馬を見つめるジョン・ブロックルバンク氏(右)



英国のドンカスター2歳セールの結果がそれを物語っている。

はじまる本格的なピンフッキング

キーンランドで開催された2歳馬セールでは、66頭が売られて総額1180万ドル。平均価格は17万8千ドルで、昨年を15%下回ったが、このご時世に上々の数字である。このセリからは、米チャンピオン3歳馬のビッグブラウンが出ている。また、海を越えて、英国のドンカスターセールでも、112頭が売られ、総額272ポンド、平均価格は2万4千ポンドで、昨年を、やはり15%下回った。ところで、英国、アイルランド、フランスで行われる7つのブリーズアップセールには、不況時の新しいイニシアチブとして、ブリーズアップボーナスがつくことになった。詳細については、今回は避けるが、このプロモーションは、国を越えて、アイリッシュ・サラブレッド・マーケティングと、ブリティッシュ・ブラッドストック・マーケティングがジョイントで実施しているものだという。彼らが、いかに、今後のトレーニング・ブリーズアップセールに力を入れていくかが分かるようだ。

オーストラリアでも同じように考えた人がいた。ビル・ウラホス氏。彼は、オーストラリアの著名な心理学者で、実業家。珍しい組み合わせだが、実は、彼の心理学者としてのスキルと知識は、ビジネス界で定評があるらしい。彼はまた多くの競走馬のオーナーでもある。海外から、種牡馬を買収してオーストラリアに連れて来ているから、単なるホビーオーナーとも違うようだ。その彼が、ピンフ



ッカーキングのジョン・ブロックルバンク氏に出会い、BC3オーストラリアという会社を作った。このBC3には、かつてダレン・ビードマン騎手と並ぶチャンピオンジョッキーだったサイモン・マーシャル氏、他にオーストラリアの優れたホースマンやマーケティングの専門家も入っている。牧場も買収して、オーストラリアで本格的な活動をするのだという。ちなみに、昨年のマジックミリオンズのトレーニングセールで売った馬たちは、6頭が既にレースに出走し、その中の3頭が勝ち上がり、中には特別レースで優勝した馬もいる。

そして、BC3は、日本の市場に進出したいのだという。日本のトレーニングセール市場は、まだまだあまり活発ではないという話を聞いたと伝えると、ウラホス氏は「オーストラリアも活発ではなかった訳ですから、今、日本のトレーニングセールが活発でないというだけで、進出をしないという理由にはなりません」と語った。5月にはアメリカからジョン・ブロックルバンク氏が飛んで来て、日本のトレーニングセールやトレーニング施設、また、牧場などを視察するという。彼らの目的は、日本のクオリティーの高い馬をジョン・ブロックルバンク氏の指導と技術でトレーニングし、日本の人々に買ってもらうだけでなく、アメリカやアジアにも売っていく予定らしい。実際、香港ジョッキークラブのようなところや、シンガポールのオーナーたちは、このような方式であれば安心して買うことができるだろう。トレーニングして外国に売るために、日本の1歳馬を買うというのだから、日本の生産者にとっては嬉しい話ではないだろうか。

筆者●プロフィール



Mariko Hyland ■ 団塊の世代。アナウンサー、コピーライターなどを経る。著書に「オーストラリアとニュージージーランドの競馬ガイドブック」など。オーストラリア人の夫、2人の娘とシドニー在住。



日本でも行われているトレーニングセール。写真は2008ひだかトレーニングセールの公開調教(騎乗供賞)の様子